

{ 関係者紹介 }



「被爆柿の木2世」の生みの親 海老沼正幸(樹木医)

1949年3月7日、茨城県高萩市生まれ。1977年に長崎市へ移転、造園業を営む。1993年、農林水産大臣認定「樹木医」の登録を受け、造園業を営むかたわら、樹木の診断・治療・保護育成にあたる。1994年5月、被爆柿の木の治療を行い、樹勢が衰えていた「被爆柿の木の子孫」を生み出すことに成功。この苗木を「平和のシンボル」として全国に配る活動を行っている。



「プロジェクト」の生みの親 宮島達男(現代美術家)

東北芸術工科大学／京都造形芸術大学副学長
1957年1月16日、東京生まれ。東京芸術大学大学院美術研究科修了。1988年ベネチア・ビエンナーレに、アペルト部門で招待され、デジタル数字を用いた作品で国際的に注目を集める。以来、国内外で数多くの展覧会を開催。ロンドンのテート・ギャラリー、ミュンヘン州立近代美術館、東京都現代美術館に作品収蔵。「時の蘇生・柿の木プロジェクト」発起人。



柿の木プロジェクト実行委員会

「被爆柿の木2世」と子どもたちを結ぶアートプロジェクト「時の蘇生・柿の木プロジェクト」を世界に広げる活動を展開。毎年、里親を募集してふさわしい植樹地を選ぶほか、イベントの相談、苗木の輸送など、さまざまなサポートを行う。